の 芳男 件 般質問 原田

平成 24 年度決算に係わって

町長:医療費助成などは、国の動向を見ながら進めたい



増加している。 2千円、差引2億788 6万4千円です。基金に ついても3800万ほど 千円歳出79億4296万 82億2182万6

ないか。 り入れの増加が必要では るが、一般会計からの繰 性的赤字状況となってい ②国民健康保険会計は慢 所得制限の廃止などが例 る町政が求められる。町民の暮らしを応援す として挙げられる) 防接種、福祉ハイヤーの 菌やインフルエンザの予 無料化や高齢者の肺炎球 (中学生までの医療費の

住民の負担が増えるだけ ているが、地方自治体と 位の広域を進めようとし また、国は都道府県単

院は、 のみ、 行っているが、今後、 学校就学前までは初診料 や道の動向を見ながら進 中学卒業までの入 自己負担の助成を 玉

成に関しては、小 ①子どもの医療助

肺炎球菌・イン うと事故は起こるという 思うがいかがか。 立場に立てば、廃炉を目 指すのが当然のことだと 今回の大雨で、

現在 ②国保会計については、 もやむを得ない。 般会計から繰り入れてお として8700万円を一 この4年間で不納欠損分 フルエンザについては、 福祉ハイヤーについて 応能負担で所得制限 増額は考えていない。 一部補助している。

泊原発は廃炉が当然

明したことになっている。 再稼働に反対の立場に立 らしを守る立場であれば つべきではないか。 稼働を容認する立場を表 原田 本町の住民の安全と暮 によると町長は再 北海道新聞の報道

る。 地震計が一時使えない状などへ大量の水が浸入し 況になったといわれてい 月28日の大雨で管理区域 されているはずだが、7 して水密扉など対策が施 泊原発は、津波対策と

どのような対策を施そ 事中のところから 工 町長

ている。 われば今回のようなこと はないと北電では発表し

らざるを得ない。 再生可能エネルギーが確 は、 立するまでは、 町 廃炉が理想的だが、

策を協議していきたいと

町長

目安とした本町 ①生活保護基準を

ぜハイヤーは来ない観光客や住民からな

素である。 へのアクセスは重要な要 る観光客にとって目的地 っているが、 原田 は大事な産業にな 本町にとって観光 本町を訪れ

①なぜ という苦情である。 イヤーがなかなか来ない 以前のように頼んでもハ 民から聞こえてくるのは

ないのか ②解決策は ③山麓の業界で対応でき

現在の状況で7台減少しなりの台数があったが、 ている。 ①以前は2社体制でそれ と耳にする。 台数が減ったの

民の命を守るために

本町を訪れる方々や住

ハイヤーを頼んで

もなかなか来ない ②介護保険については、 がどのようになるのか。 を目安にした制度がある ①本町には生活保護基準

と思う。業界各社と解決 ③現状はなかなか難しい のではと推測する。 ②冬だけの増車は難しい が足りない状況である。 に冬の観光客は昨年より ますます台数

ようとしている。本町はから外し、町村に担わせ

た人を保険給付の枠組み で「要支援」と認定され

大丈夫か。

来年の介護保険法の改定

げによる町の制度は生活保護基準引き下

ては、国・道のL 制度は48ある。

本町とし

国・道の対応方針

準じていく。

立てや訴訟が取り組まれ 原田 それに対して異議申し 国は 基準」を引き下げ 「生活保護の

②介護保険は、7段などに影響がある。

7段階の

がれば連動して「住

民

生活保護費の基準が

税・国保税・会議保険」

移管分は町村が独自に基

うち1・2が別格になる。

上げようとしている。 8%、再来年10%に引き 革といって消費税を来年 しかし、自民、公明、 税と社会保障の一体改

> 不透明な部分がある。 準を定めることになるが、

路が必要国道393号線に回

悪など負担増ばかりであ り下げや、介護保険の改 費税を使う話は全く出て り、社会保障のために消 たのは、生活保護費の切 安倍政権が打ち出してき とんでもないこ

原田

迂回路が必要では。 車引き返すことになった。 迂回路のないことから全 めになったことによって 93号線が通行止 や安全面を考える 先日事故で国道 工事費・冬期除

難しいと思う。



己点検、

評価を行い事業

習授業支援を5

回。

風土

は5年生の宿泊学習を

⑤美術館は小中学校の学 計画を進めている。

榊 政信 の

「風土館 長期運営計画は如何か ている

を伺う。

習支援を伺う。

⑤学校教育との連携、 などの中長期計画を伺う。

⑥民間団体との連携状況

④展示・普及・研究活動

置計画を伺う。

不足のようだが、

人員配

⑥美術館友の会は欠かせ

援体制を広げたい。 支援。今後町内全校に支

教育長:学芸員の増員、 施設増設は今後の課題

存事業を毎年展開し、自普及研究活動、文化財保館は維持管理、展示活動、 2 名、 ③美術館は非常勤学芸員 空調設備が脆弱。 置工事を施工。 ②美術館は春に収納棚設 画コンクール事業。 展示活動、 ④美術館は、 員や増員を要望している 芸員を兼務。常勤の学芸 本への影響を防ぎたい。 少傾向に推移。 教育長 の評価は高 風土館は館長が学 時の半数程度で減 ①両館ともピーク 普及活動、 維持管理、 風土館は リピー 生物標 風光絵 ġ

> 携やニセコ羊蹄再発見の の森ファンクラブとの連ない存在。風土館は百年 無理。 人員を増強して活 も連携を継続中。 動を充実すべき。 美術館 子供たちへの教育支援は ーガイドネットワークと を支援。ニセコネイチャ 会のエキノコックス駆除 研究や展示活動、風土館、現体制で 体制で

も同様。これまでの蓄積

も必要ではないか。 展示品の受入れもままな 要ではないか。 館の収蔵庫も狭隘。 承する人員配置が 必

③学芸員などマンパワー②収蔵能力は充分か。

以上が経つ。 両館とも設置10

尻別川のイトウの学習を

昨年から4

年

の増員はで 61 役場の他部署も同様に人 教育長 員の課題はあるが、 理解が得られな 教育委員会だけ

> 環境整備をどう行うか。 が安心して暮らせる居住

町長

要望されている。

高齢者

者住居の設置への支援を

人下宿などの高齢 町長は町民から老

どを計画的に行うべき。 が現実的で今後の課題。 現施設の横に増設するの 収蔵庫もスペース不足 増員や施設増築な中長期運営計画で

> 含めて関係機関や福祉法 住まいを空き施設利用を

人とも連携し模索してい



展示品で満杯の収蔵庫

主体的な取り可燃ごみのな 組広を域 化

現時点で独自の自主条

燃料化を行う。 は資源の循環に逆行する 市等では紙おむつの固形 却・炭化から減容分解に 更した理由は。 みの処理方法、焼 紙おむつや衛生ご 減容化で 富良野

町 者保有の最終処分 **のではないか。** ら外していた。今後の検処理量不足もあり検討か 解の提案を受けた。 がない。代わりに減容分場は焼却残渣埋立の許可 材料のひとつである。 紙おむつ燃料化装置 0

る。

高齢者の住替え どう対応するか水資源の保全

どう行う

域指定が必要ではないか。区などに水資源保全の地 自主条例による規制 山田、旭、花 尻別川西部地 花園区 地地の

町 林内、冷水川水源は国定公園内で事前規制は国定公園内で事前規制 が必要ではないか。 水制限など独自の取組み 協議施設の設定や大量取 域の指定を見送った。

質を高められるような

の不安がなく生活 孤独感や冬の除雪

見ながら研究を続ける。国や道の法整備の推移を例制定は想定していない。 がない。 は助言も協議もできない。 どう考える。無指定地域 る。これらの保全指定を 町長 設の専用水道もあ山田、花園には民 地域指定しても助 言できるが拘束力

も必要性について今後 査していく。 担当 課長 研究の継続を望む。 自主条例で規制す拘束力がないから あ第っ一 った。 回目の指定で 他の水源

道に協力してきている。

会の設定や案内等 要望活動他、説明

町長

作井

絶対絶対条件、早

尻別川本格整備の

れた以後の関与を伺う。

作井

的な関与が求めら

件 問 作井 議員 0 般 質

尻別川圏域河川整備計画 本格整備の絶対条件 早期策定に向け、 本町として更なる関与を

町長:地域住民と検討会を開催するなど、 積極的に関与する

町長

より、検討中の計 地域住民の要望に

計画策定が遅れている。 それらを盛り込むために 画見直しが必要となり、



地域住民・関係機

に関与する。 を開催するなど、

の流れ、 う。 作井 緯、 河川法改正後の経 議論の経過を伺 計画策定まで

なる関与、

覚悟を伺う。 本町の更

町長

備に向けた検討会

地域住民と築堤整

期策定に向け、

ることになっている。 の検討委員会が開催され 議を行い、今後更に2回 ワークショップ・円卓会 検討委員会他、 義務づけられた。3回の 町長 関との合意形成が 説明会・

努力を、 に理解を得るべく更なる 作井 総論賛成的議論、 再度見解を伺う。 人でも多くの方

中でも話をしていきたい。 町長 ちづくり懇談会の よくわかった、ま

> 念事業に向けて50周年、意義ある記ツとの姉妹都市提携スイス・サンモリッ 伺う。 念小冊子の内容(案)を な経過、本年作成予定記 作井 の経緯、交流の主 姉妹都市提携まで

> > 立つことは当然のこと。 において、町長が先頭に 表敬訪問などの公式行事 ずというものではない。

積極的

経緯の検証もしていく。 を永久保存版とする予定 町長 両市町の現在など 提携50年の 歴史

実行委員会委員の

を伺う。

けがなされるべき、 の未来への投資に予算付

見解

どの人材育成、本町観光ンの作成や、公式訪問な

今後の交流促進プラ

式典などにでは 必要以上に華美な

来年実

ていく。 ているが、 工観光課長を加えて進め 町長 は全部長も参画し 役場職員において 次回からは商

公式訪問、 ならぬ、町長が団長にて 先方に不義理があっては ろとは言わないが、 明言すべき

実行委員長を替え

な機会と位置付けたい。

改めてこれからのまちづ リッツとの交流を通して、

くり全般に生かせる重要

作井 選考基準、

れている要因と課題を伺

作井

国管理区間と比較

計画策定が遅

寒別橋付近の河川氾濫(平成24年5月)

伺う。 つ先方への誠意、 行委員長は首長が常識且 携・盟約の周年行事、 れたが、自治体同士の提 光協会長が選任さ 実行委員長には観 見解を 実

内容のたたき台を伺う。 施予定50周年記念行事の

町長

事業遂行委員会で

もあり、

首長が必

的な提案がなされる。 したい、次回以降、具体 今後のまちづくりに生か めるには至っていないが、 体等総勢32人。内容を詰 式訪問経験者他、 町長 過性のものにはせず、 いとの思いから公 町民挙げて祝いた 関係団

作井

も関わるべき、 商工観光課並びに建設課 ジェクトチーム」として、 に発足した「観光プロ 投資と受けとめ、役場内 作井 町観光の未来への この記念行事を本 見解を伺

町長

ゾート都市サンモ 世界に名だたるリ

御心配なく。 としての役割を果たす、 町長 スがあれば、 公式訪問のチャン

心の高さが示された。 者300名が集まり、関

ては、

倶知安町のみなら

ず沿線市町村と連携を進

オール後志態勢で要

望活動を鋭意進めていく。

高速道路シンポジウムに

知安町で開かれた 去る7月25日、

っており、

まさしく官民

倶

と中央要望活動を行

周辺市町村から関係

要望活動を推進している。 連携のもとに中央官庁に

今後の要望活動に関し

田中



田中 義人 議員 般 の

北海道横断自動車道倶知安延伸の取り組みは

町長:オール後志体制で要望活動を進める

行動が、 緩和、 成会において5月22日に 国土交通省等で、 北海道開発局、30日には 小樽開発建設部、 事業着手についての要望 な取り組みを行っていく 業化の要望をしてきた。 に余市・倶知安間の早期 など効果が期待される。 小樽間の建設促進、 冬期災害、交通混雑の 実現に向け、どのよう 災害時の避難経路 断自動車 今年度の北 後志総合開発期 道黒松内

民間側 町 商工会議保っている、祝である。 をつなぐネットワーク連 される北海道の地域と道 所や建設業協会等で構成 地元選出国会議員、 隔で上京しながら、 その後も非常に短い間 財務省等と連携を 商工会議 国交 道内

> う。 は必要不可欠になり、 与える大きなものだと思 幹線以上のインパクトを 業呼び込み、 本町への新たな産 観光のみならず、 企業誘致に 新

連携の上、 努力願う。 周辺自治体、 実現するよう 議会とも

③民間業者との連携の可 にはならないか。 田 ②・井、給食に限定 田中 ①財源: ば

識しているが、 かなか見つからない状況。 町長 施設更新の必要性は認 有効な補助等がな ①事業費に対する 事業費12

において、

6

8月7・8日

財政状況から厳しい。 億7000万円は本町

②病院などとの連携は 当てにめどをつけた暁にな縮減額を示し、財源手 等からすると、厳しい財町全体の公共施設整備 いと考える。 別対応の必要性から難し かに実現したい。 政事情ではあるが、 移転改築事業を速 適 正 個

新規事

28 日 に

建設の方向性は学校給食センタ-

整備を進めている。 ③ P P P F I 制度は まないようだ。 北海道の自治体には馴染 校給食センターとしての

指定銀行の北洋銀行か

される。 提供する限り、 であろうが、学校給食を が、 補助が入ろうがなかろう 賛否の結論は出ていない。 法による基準等々が適用 教育長 また単純に調理工場 民設であろうが、 ②公設であろうが 学校給食

らない。 託するという考えでも、 施設には、仮に給食を委 そういう施設にしてはな また、 基準に満たな 41

本町では、

あくまで学

沿ったセンターの整備を 学校給食法等の規則に 学校教育の観点から、



施設更新が急がれる学校給食センター

すべき。はないか。提示時期を示財政管理上おかしいので提示できないと言うのは う給食センターの財源を 新がある中、 ている様々な公共施設更 田中 地利用など山積し 保育所や中学校 最優先とい

いる。 町長 12月定例までには 示したいと思って

の検討、 初あったが実現しなかっ 支払っていく手法論が当 ゆる延べ払い形、 化・共同化の検討や手 の協議のころから、広域 平成13年度合併研究会で の民間との連携について、 ③PPP•PFI制度等 (旧法のPFI) 、いわ もちろんPFI 年賦で

る。 に向けた検討を行っ だと思う。 建設に向け、 備においては重要な制 に限らず、 現在、 L かし、 新給食センター 今後の施設 給食センター 経費の縮 7 減

般質問 伊達 隆 議員 件の一

平成 25 年度の防災訓練計画内容は

町長:大規模停電における対応をテーマとした訓練



中での、 くつかの反省点があった昨年の防災訓練で、い るはずがない」と言われ ことが有事にでき

訓練の内容は。 等について、周知方法は 道原子力防災訓練の日程 また、平成25年度北海 平成25年度防災

3月中旬とし、昨年の反時期は、平成26年 今回は、登別市や室蘭省を踏まえて実施する。 市方面で発生した、 冬期

> 訓練にテストを兼ねて使が、来年3月中旬の防災は、平成26年4月1日だ 5、平成26年4月1日だ防災無線の正式な運用

10月号で周知する。 細については、町広報紙 訓練を予定している。 容は自宅等への屋内退避 日に実施するが、 原子力防災訓練は10月8 また、本年度の北海道 訓練内

い。時期が近づいたら示した時期が近づいたら示した、 対応をテーマとして訓練

用する考えである。 考えるが町長の見解は。

する方向で調整している。 大規模停電時における

一平時にできない

して牛の 町長 牧場運営に当たっ 飲み水の確保が 重要なものと

する民有地で開発行為がは、2カ所の取水場所がは、2カ所の取水場所が 進められている。 に温泉を掘削し、宿泊施また、開発行為とは別

原子力防災訓練実施本部

現地確認を行い、その際酪農組合長など関係者で町職員・ようてい農協・ この開発計画を受けて 震関係者から、

> なされた。 その後、 開発業者から

いることから、排水協議水も排出基準を満たしての基準を満たし、温泉排 の設置工事を最優先に取考え、湧水場所に取水枡 水の確保が最重要課題と町としては、牛の飲み 議を行う。 要に応じて開発業者と協 は望めないが、 についてこれ以上の進 基準を満たし、 今後も必 排水協議 が水は国 展

提出された温泉分析表を

浄化槽排水は

花園牧場 ~牛の飲み水の確保が心配される~

れている。 設に利用する計画が出さに温泉を掘削し、宿泊施

果から、当初計画通り牧んでも問題ないという結確認したところ、人が飲

に放流したいとのことだ

内を流れる硫黄4号川

町営花園牧場 の 運営

件の一つである。飲料水の確保は、 されるよう、将来を見据安全・安心な環境が確保 十分な水量と水質、またが、牧場の牛の飲料水が 開発行為が行われている えた対応・対策が必要と 要な役割を担う牧場での 今日、 振興にとって、重本町の酪農畜産業 牧場の西側でも 重要案

の設置と浄化槽排水や温 湧水源にコンクリート枡 棄が懸念されることから、 泉水の水質検査の要望が 疫等の伝染病やごみの投